

安全保障で相互不信

岸田外相、北京を訪問 王氏「対抗心捨てよ」

【北京、東京共同】北京を訪問した岸田文雄外相が中国の王毅外相と会談し、対北朝鮮外交や世界経済安定への連携を確認した。だが東シナ海、南シナ海問題を背景とした日中双方の安全保障政策への相互不信は根深い。安倍政権は中国の不透明な軍拡路線を警戒し、中国は安全保障連法など日米同盟強化の動きに神経をとがらせる。王氏は「日本は対抗心を捨てるべきだ」と要求。日本側から「傲慢極まりない」(政府筋)との声が上がった。

▽隔たり

30日午前、北京の釣魚台迎賓館。王氏は会談冒頭、熊本地震への見舞いの言葉を口にした後で、「日本は両国関係を改善したい」と重ねて表明して

いる。中国には「言葉を

聞き、振る舞いを見極める」という古いことわざがある。日本が本当に実

行に移せるかを見たい」と述べた。岸田氏を見下すかのような発言には、憲法9条改定にも意欲を示す安倍首相をけん制する狙いがあるとみられる。

続いて岸田氏が、日本の外相の訪中は国際会議出席を除くと4年半ぶり

になると説明した上で

「日中の往来が途絶える

のは望ましいことではな

い」と王氏に伝えた。透

りて岸田氏が、日本

が今年1月の講演で実現

に反発したためとされ

る。岸田氏はその後、北

京で開かれている

朝鮮核問題に関する電話

協議の申し入れを王氏か

ら何度も拒まれるなど、

中国から搔きぶられた。

今回の訪中も、岸田氏

が引けない

5月下旬の

伊勢志摩サミットでも取

り上げる」と力を込め

る。中国は安倍政権が進め

る安保政策見直しに身構

える。中国側によると、

王氏は会談で中国への対

応向を固めた背景には、

中国から搔きぶられた。

邸筋は「この問題で日本

は引けない

5月下旬の

伊勢志摩サミットでも取

り上げる」と予測した。

岸田氏は今回、李首相

とも会談で「中

日関係はまだ確固

た」とアピールした。

楊潔子(竹カンムリ)は、

岸田外相の訪中を歓迎

した。楊潔子は「中日関係が谷底に落ちた原因が何か、日本も自分で分かっている

だろ」と挑発した。

岸田氏は今回、李首相

とも会談で「中

日関係はまだ確固

た」とアピールした。

楊潔子は「中日関係が谷底に落ちた原因が何か、日本も自分で分かっている

だろ」と挑発した。

岸田氏は今回、李首相

とも会

